

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
1-1-(1)	地域の行事等における子どもの参加の促進	<p>児童厚生員が移動児童館事業として児童館のない地域に赴き、北島子ども会と川井子ども会への子ども会行事の支援を各1回ずつ実施した。</p> <p>岩倉ボランティアサークルには「にこにこシティいわくら2018」等の児童館行事に加えて、岩倉市子ども会連絡協議会の事業や単位子ども会の行事や活動を支援していただき、子どもたちが行事等の活動へ主体的に参加することができた。子ども会会員数を増やすため、岩倉市子ども会連絡協議会主催で「親子いもイモ大作戦」を実施した。幼稚園、保育園の子どもから小学校低学年の子どもを持つ親子を対象に実施し、親子20組55人の参加があった。</p>
1-1-(2)	行事の企画やまちづくりにおける子ども委員会や子ども会議の設置	<p>児童館行事「にこにこシティいわくら2018」において、子どもの実行委員を募り、実行委員会を計4回開催した。実行委員会では、町の仕組みや運営方法などについて意見を出し合い、準備を進めた。実行委員として小学生50人、中学生3人の参加があった。</p>
1-1-(3)	子どもの地域社会への参加意識の向上	<p>子どもたちが、子どもたちの作り上げたまちで生活し働くことによって、働くことの大切さを学ぶ機会となるよう、「にこにこシティいわくら2018」を実施した。実施にあたっては、子どもの実行委員を募り、実行委員会ではまちにはどんな仕事があるとよいのか話し合いをした。</p>
1-2-(1)	子どもの意見を生かした事業の実施	<p>子どもたちの意見や気持ちを聴き、児童館事業及び岩倉市子ども行動計画事業に反映させるものとして市内小学校・児童館で意見カードの配布をし、82件の意見カードを回収した。意見カードで出た意見は、にこにこシティいわくら実行委員会でもちの仕事やお店を決める際に参考とした。</p> <p>また、「にこにこシティいわくら2018」の会場では、意見ボードを設置し、今後行って欲しい児童館行事などへの意見（202件）を聞くことができた。意見ボードで出た意見は、得票数の多かった行事を次年度以降に実施できるように進めていく。</p>
1-2-(2)	児童館事業を通じた子どもの意見表明・参加の場づくり	<p>「ろっくんまつり」と題し7月に夏祭りを開催した。夏祭りの実施に向けては、小学生の夏祭り実行委員を募り、実行委員会を5月から月1回開催し、子どもたちが企画内容を考えた夏祭りを開催することができた。</p>
1-2-(3)	岩倉子どものまち事業の推進	<p>児童館行事「にこにこシティいわくら2018」を実施し、子どもの参加は315人であった。平成30年度は「岩倉市子ども条例制定10周年記念事業」として、総合体育文化センターアリーナを会場として行った。保護者が3階観覧席から見学することができ、100人ほどが見学をした。実施にあたっては、子どもの実行委員を募り、実行委員会を計4回開催し、まちの仕事や当日の準備など実行委員を中心に考え、運営した。</p>

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
1-3-(1)	学校の行事等における子どもの自主性の促進	小学校においては、委員会の活動の中で、自ら考えたことや企画した内容に取り組むとともに啓発活動やポスター作成等を行った。また、学校行事では、授業で学んだ内容を発展させ、自分たちで企画した催し物に取り組んだ。中学校においては、学校行事に留まらず地域や小学校への発信を積極的に行った。
1-4-(1)	子どもの意見表明・参加の場におけるユースワーカーとしての支援	児童厚生員が子どもの意見表明、参加の場づくりの担い手として子どもの権利について理解し、想いを分かり合う大人として子どもたちと向き合った。また、にこにこシティいわくら、各児童館の夏祭りにおいて実行委員を募り、子どもの意見を尊重した行事になるよう努めた。
2-1-(1)	子どもの遊び場の環境整備や豊かな体験の場の提供	都市公園の遊具の保守点検を実施し、点検結果に基づき修繕を実施し、施設の環境整備を実施した。また、睦公園では、老朽化により撤去した遊具に替え、小型遊具2基を設置した。児童遊園の植木剪定、草刈、遊具の保守管理等により施設の環境整備を実施した。地域探索を通して、子どもたちの探究心を育て、岩倉のまちについて知り、親子の触れ合いの時間を作ることを目的に、「岩倉探検隊 岩倉竹取物語〜かぐや姫を救出せよ!〜」を実施した。参加者数は、小学生20人、大人39人であった。
2-1-(2)	児童館や地域交流センターを核とした中高生世代の居場所づくり	平成29年度に行った中学生企画のアンケートで一番多かった「ナゾトキGAME in ダイロク」を第六児童館で2月に実施し、小学生25人、中学生5人の参加があった。
2-2-(1)	放課後児童健全育成事業の拡充	五条川小学校地内に放課後児童クラブ専用施設を平成30年4月から開設した。それに伴い、放課後児童クラブを第六児童館から五条川小学校内へ移設した。加えて、定員を80人まで、対象学年も小学校4年生から小学校6年生まで拡大した。岩倉北小学校区内の放課後児童クラブについて、岩倉北小学校の低学年図書室及び調べ学習室を臨時の開設場所とし、夏休み期間のみクラブを利用する児童を39人を受け入れた。
2-2-(2)	放課後子ども教室の拡充	放課後子ども教室として学校施設（図書室、コンピュータ室、体育館）を開放し、延べ403教室に、3,947人の児童が参加した。
2-2-(3)	学校開放の推進	平成30年度は岩倉市放課後子ども総合プラン基本方針に基づき、平日における放課後児童クラブとの一体的な放課後子ども教室を岩倉南小学校においては6月と7月に、五条川小学校においては12月に試行実施した。岩倉南小学校では計3日間実施し延べ104人、五条川小学校では計2日間実施し延べ23人の参加があった。

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
3-1-(1)	子どもの権利を考える週間における学習機会の充実	各小中学校での「岩倉市子どもの権利を考える週間」において子どもの権利に関する授業を実施した。また、1日人権擁護委員に任命された中学校の代表生徒が、岩倉駅などで人権啓発活動に参加した。
3-1-(2)	小中学校における人権教育の推進	岩倉市小中学校人権教育研究会を中心に共通の研究主題のもと、市内全小中学校が連携しながら研究を深めながら、人権に関する講演会の開催など人権意識の高揚を図る活動に取り組んだ。第4回子ども人権会議を開催し、各校2名の児童生徒が各学校における人権尊重の取組についての情報交換や岩倉子ども人権の歌「また明日ね」の歌詞作りを通じて人権について考える機会とした。
3-1-(3)	子ども自身による情報発信の機会の拡大	子どもたちが児童館の活動を通じて「子ども新聞」を作成した。いつも利用している児童館の周りを探検しようというテーマで各館で話し合い、様々な角度から児童館を知ることができた。また、改めての気づきや新しい発見を子ども新聞という形で発表、発信できた。
3-2-(1)	保護者への啓発	子育てネットワークの協力の下、冊子「いわくら子育て親育ち十七条」を用いて、子育て親育ち講座（保健センター4か月児健診）等を実施した。「いわくら子育て親育ち十七条」と併せて、福祉課作成の「こどもたちキラキラいわくら子育て情報」を配布し、子育てに関する最新情報を提供した。冊子「いわくら子育て親育ち十七条」についてはホームページ上でも公開して周知に努めている。岩倉市内の子育てに関連する施設やイベントの情報をまとめた「いわくら子育てスポット」を発行した。
3-2-(2)	市民等への周知及び啓発の推進	岩倉市子ども条例制定10周年を記念し、子ども条例啓発研修会を開催し、76人の参加があった。研修会を『岩倉市子ども条例制定10周年記念事業 子ども権利研修会「岩倉市子ども条例10年のあゆみ～そしてこれから～」』と題し、子ども条例に関する活動報告と、特定非営利活動法人子ども&まちネットの伊藤一美氏による記念講演を行った。
4-1-(1)	貧困、虐待、いじめ等からの救済のための連携強化	被虐待児童生徒については、毎月、主任児童委員、一宮児童相談センター職員、保健センター職員、福祉課職員等の関係機関との岩倉市要保護児童等対策定例会議において情報共有を図った。学校、保護者や法務局等の関係機関の代表者が、いじめ問題対策連絡協議会においていじめの防止等に関する取組や考え方について意見交換を行い、効果的な取組事例等について情報共有を図ることができた。岩倉市要保護児童等対策定例会議にて取り扱った件数が増加し29件となった。多くの家庭について関係機関と情報共有し連携を図った。平成30年10月から、定例会議に江南警察署が参加することとなり、連携体制を強化した。

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
4-1-(2)	被害に遭った子どもに対する支援の充実	<p>一部の学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者のカウンセリングを行った。</p> <p>市内全小中学校に子どもと親の相談員を配置し、児童生徒や保護者が気軽に相談できる体制の充実を図った。</p> <p>保育園、児童館等で、いじめ、児童虐待等の早期発見と専門機関への連携を心がけており、いじめ、児童虐待等被害に遭った子どもを認知した場合は、学校や担当部署と連携をとり、解決につなげている。</p>
4-1-(3)	関係機関との連携	<p>被虐待児童生徒については、毎月、主任児童委員、一宮児童相談センター職員、保健センター職員、福祉課職員等の関係機関との岩倉市要保護児童等対策定例会議において情報共有を図った。</p> <p>関係機関が主催するケース会議に参加し、情報共有や支援体制の確認をしたが、家庭児童相談室を窓口としたケース会議は必要なケースがなかったため開催しなかった。</p> <p>保育園、児童館等では、必要に応じて関係機関と連携し、施設での児童の状況や育児支援の情報共有を行った。</p>
4-2-(1)	子どもの権利救済窓口の充実	<p>家庭児童相談室で受け付けた相談件数は、実件数118件、延べ1,052件であった。</p> <p>市民相談室においては、児童虐待や子どもの人権に関する相談はなかった。</p> <p>一部の学校にスクールカウンセラー、全小中学校に子どもと親の相談員を配置し、子どもと親の相談員を配置し、子どもや保護者が気軽に相談できる体制の充実を図った。</p> <p>スクールカウンセラーの相談件数は、平成28年度933件、平成29年度1,061件、平成30年度1,270件であった。</p> <p>子どもと親の相談員の相談件数は、平成28年度2,843件、平成29年度2,734件、平成30年度2,342件であった。</p> <p>子育て支援課、保育園、あゆみの家、児童館、子育て支援センターにおいて子どもの権利救済の窓口として、保護者からの直接の相談や電話相談に職員が対応し、相談内容に応じて関係機関へ連携を取るなど子どもの見守り体制を整えた。</p> <p>子どもの権利救済窓口として乳幼児健康相談や乳幼児健康診査、家庭訪問や電話・面接相談において相談に対応した。また、乳幼児健康診査や要保護児童対策定例会等で育児支援情報を共有し、必要に応じて関係機関と情報交換を行い支援体制の充実に努めた。</p>

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
4-2-(2)	身近な相談窓口の充実	<p>一部の学校にスクールカウンセラー、全小中学校に子どもと親の相談員を配置し、子どもと親の相談員を配置し、子どもや保護者が気軽に相談できる体制の充実を図った。</p> <p>スクールカウンセラーの相談件数は、平成28年度933件、平成29年度1,061件、平成30年度1,270件であった。</p> <p>子どもと親の相談員の相談件数は、平成28年度2,843件、平成29年度2,734件、平成30年度2,342件であった。</p> <p>「じどうかんないろそうだんしつのお知らせ」と直接話しかけにくい子どもや保護者のために「相談カード」を5月の児童館だよりと共に学校を通じて配布した。また、相談できる場所の周知としてポスターの掲示も行った。平成30年度の子どもからの相談件数は134件、大人からの相談件数は91件であった。</p>
4-2-(3)	子どもの貧困に対する支援の充実	<p>平成30年度の学習支援事業利用者数は、小学生4人、中学生4人であった。生活保護世帯や生活困窮世帯の小中学生が学習支援事業を利用したことで、学習への取り組みや居場所づくりなどの支援ができた。また、平成30年度のフードバンク利用者数は、8人であった。フードバンクを利用し、生活困窮者に食料支援をすることにより、当面の食生活の安定や、継続して相談する状況につながった。</p>
4-2-(4)	いじめ防止対策の推進	<p>学校、保護者や法務局等の関係機関の代表者が、いじめ問題対策連絡協議会においていじめの防止等に関する取組や考え方について意見交換を行い、効果的な取組事例等について情報共有を図ることができた。</p>
4-2-(5)	岩倉市子どもの権利救済委員会の充実	<p>岩倉市子ども条例に基づき、子どもの権利の救済を図るため、弁護士・児童相談センター長で組織する子どもの権利救済委員会を1回開催した。</p>
5-1-(1)	交流の場の充実	<p>1～3歳までの子どもを持つ親子を対象に学校休業日、祝祭日を除く水曜日に幼児クラブを第二、第三、第四、第五、第六児童館で実施し、延べ2,178組、4,349人の参加があった。また、第六児童館において、未就園児の親子の交流を目的とした事業「みんなあつまれ～」を行い、全12回、延べ101名の参加があった。</p> <p>保育園で未就園児の交流を行う地域活動事業として、ちびっこクラブを5月から2月の間に全10回開催し、延べ715組の親子の参加があった。また、東部保育園では、絵本を通して親子でふれあいを持つ場として「子ども絵本図書室」を開設し、延べ129人の利用があった。</p> <p>生涯学習センターでは子どもルームで6,275人の利用があった。また、岩倉市図書館ボランティアの協力により、おはなし会を90回実施し、971人の参加があった。</p> <p>多世代交流センターさくらの家では、さくらの家まつり、日曜日臨時開館を実施した。また、その他に多世代交流事業として、ふれあい歩け歩け大会、たっちゃん紙芝居を実施した。</p>

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
5-1-(2)	地域子育て支援センター事業の推進	<p>平成30年度は、新たに子育て支援センターのしおりを作成し、4か月健診時に保護者に配布したり、国際交流員との交流の機会を増やしたりする等、利用者の拡大に努めた。</p> <p>平成30年度のサークル数は、主催する保護者の転出等により2団体となり、平成29年度に比べ2団体減少した。</p> <p>サークル活動への延べ参加者数は453人であった。おでかけひよこ広場については、引き続き第三児童館、多世代交流センターさくらの家、地域交流センターポプラの家及びくすのきの家の4か所で実施し、子育て初心者で孤立しやすい0歳児の子を持つ保護者が身近な場所で地域の人たちと交流をもつことができる場となった。また、参加者が多い箇所での他の実施箇所の紹介をすることで、参加者が少ない実施箇所への誘導を図った。</p> <p>育児広場にこにこフロアは、延べ22,551人（大人11,966人 子ども10,585人）の利用があった。</p> <p>育児相談の件数は、145件であった。</p>
5-1-(3)	生まれる前から「い〜わ子育て」応援事業の推進	<p>妊娠届出時には助産師・保健師が個別相談（471件）をし、ハイリスク者に対しては支援プランに基づき支援（45件）を行った。また、妊婦メール相談（3件）、すべての産婦に助産師の電話による育児支援「おめでとうコール」（414件）、新生児・乳児訪問・面接（363件）を実施した。その他に妊婦産後ママ交流会（全6回、54組参加）、パパママセミナー（全4回、75組参加）を実施した。関係機関との連携として、江南厚生病院ケース会議、周産期関係機関連携会議に参加した。</p>
5-1-(4)	地域住民のつながりによる子育て支援の促進	<p>児童館母親クラブや地域ボランティア、老人クラブの方の協力を得て児童館行事のクラブ活動や地域交流会を実施した。また、読み聞かせのボランティアによる「おはなし会」なども定期的な実施した。幼児クラブでも、ボランティアの方の協力を得て、絵本や紙芝居の読み聞かせや人形劇、リトミックなどの活動を実施した。</p>
5-1-(5)	赤ちゃん訪問事業の充実	<p>民生委員・児童委員、主任児童委員等の協力により、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、地域の中で安心して子育てができるように、子育てに関する様々な不安や悩みを聞くとともに、子育て支援に関する情報提供を行った。訪問件数は、450件であった。</p>
5-2-(1)	子育てに関する意識啓発	<p>子育てに関する情報誌として、毎月の「こにこフロアだより」と年に2回の「こにこ」を発行し、子育て情報の提供に努めた。</p> <p>子育て講演会については、育児講座の回数を増やし充実させるために廃止し、新たに子育て相談において人気の高い歯科衛生士専門学校を講師として口や歯の成長に関する講座を実施し、利用者のニーズに応えた。育児講座の開催回数は27回、参加延べ人数は661人（大人338人、子ども323人）であった。</p>

平成30年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成30年度実績
5-2-(2)	若い親に対する学習機会の提供	保健センターの健診時に併せ、乳幼児の親に対する講座を24回開催した。また、小中学校において18回、幼稚園・保育園において6回講座を開催した。 生涯学習センターの講座「子育ての講座」、「子育て親育ち講座」としては、5講座計14回を開催した。
5-2-(3)	ひとり親家庭に対する理解の促進	子育て支援課に在籍している母子・父子自立支援員が、必要に応じて窓口で相談等を行った。
5-2-(4)	将来の親となる世代に対する意識啓発	各小中学校において、学級生活や道徳指導、特別活動等を通じて人権について考え、自分や他者を大切にしようとする児童生徒の育成に努めた。 助産師さんや妊婦さんを招いて、生命誕生の神秘さや一つのいのちが生まれるまでの大変さを聞いたり、自分が生まれた時の様子（身長や体重、家の人の当時の気持ち、名前の由来等）をインタビューした内容を伝えあったりしていのちについて考える機会とした。 岩倉総合高等学校の「子どもの発達と保育」という保育の授業を選択している生徒と連携し、手遊び、リズム遊びなどを披露してもらう等、一緒に幼児クラブを実施した。延べ98人の親子、高校生12人の参加があり、幼児と遊んだり、保護者と会話などをして交流することで、高校生の小さな子どもへの接し方などの理解が深まった。